

# 歌麿とその時代 浮世絵黄金期の輝き



2018年8月31日 | 金 | - 10月2日 | 火 |  
MOA 美術館

百万人を超える大都市に成長した江戸時代後期の江戸では、活発な経済活動を背景に庶民の芸術であった浮世絵がめざましく発展しました。天明期（1781～1789年）には鳥居清長が八頭身美人を描き、続く寛政期（1789～1801年）には「美人画」を代表する絵師、喜多川歌麿が現れます。歌麿は背景に雲母摺りを施した贅沢な錦絵や、上半身にフォーカスし、細やかなしぐさや表情、さらにはその人物の内面にまでも迫る「美人大首絵」で人気を博します。また、鳥文斎栄之は気品ある女性を描き歌麿に追随します。さらに東洲斎写楽は、瞬間的表情や個性を誇張して大胆に表現した役者似顔絵と相撲絵を残しています。

文化・文政期（1804～1830年）に入ると浮世絵の最盛期となり、艶と粋をそなえた美人画を描く溪斎英泉、歌川豊国の画風を受け役者絵を発展させた歌川国貞など、美人画と役者絵の人気は幕末まで続きました。

本展では歌麿を中心に天明・寛政期から文化・文政期に活躍した清長、栄之、写楽、勝川派、歌川派など、個性豊かな絵師たちによる版画と肉筆美人画を展示し、黄金期の浮世絵の魅力に迫ります。

## 見どころ

### 1. 浮世絵黄金期の人気絵師による作品を一堂に展示

MOA美術館が所蔵する肉筆美人画の傑作の中から、女性の姿態、衣裳模様の表現等に円熟した技術を見せる歌麿の「栈橋二美人図」をはじめ、春章、栄之、豊国等の希少な美人画を紹介します。また、版画についても清長、歌麿、写楽等、人気絵師たちによる浮世絵黄金期の名品を選びすぐり展示します。



### 2. 歌麿美人大首絵の代表作

浮世絵版画の黄金時代である寛政年間（1789～1800）、歌麿は、女性の上半身や顔を画面一杯に構図する新様式の「美人大首絵」を発表しました。この試みは、従来の美人画を一変させるほどの人気を博し、歌麿の声価も高まりました。この度、「美人大首絵」創始期の作品で、背景を雲母摺とした早い作例の「婦女人相十品 文読美人」等を展示します。



### 3. 世界に二点しかない写楽作品を公開

東洲斎写楽は、寛政6年（1794）5月から翌年1月までの10ヵ月間に約140種の役者絵・相撲絵を版行したのち、忽然と姿を消した謎の絵師です。このたび展示する写楽の相撲絵「大童山土俵入」三枚続きは世界でも当館のものと、他にもう一点しか所在が確認されていない貴重な作品。1987年にボストン美術館の所蔵品の中から、この相撲絵の版木が見つかったという報道もあり、注目を集めました。大童山は、数え年8歳で、身長1メートル20センチ、体重80キログラムあまりあったという怪童で、寛政6年11月江戸両国の回向院での勸進相撲に7歳で登場し、土俵入りだけを演じた江戸っ子の人気ものでした。本図には、控え力士中に谷風、雷電など有名な力士も描かれています。



### 4. 重要文化財の肉筆浮世絵「雪月花図」、「婦女風俗十二ヶ月図」を一堂に展観

肉筆浮世絵の重要文化財は10点にも満たないものですが、そのうちの2点が勝川春章の作品で、どちらも当館蔵です。

勝川春章（1726～92）は江戸中期の浮世絵師で、勝川派の祖。肉筆画の技量は浮世絵師中、第一級と賞されています。

「雪月花図」三幅対は、平安王朝の三才媛の見立絵とし、これを当世市井の婦女風俗に描き替えています。向かって左の幅は、清少納言を武家の奥方風の女性として描き、中央の幅は、武家の娘風の女性を『源氏物語』の作者紫式部に見立てています。また、向かって右の幅は、小野小町を芸者として描いています。それぞれ江戸好みの髪型や衣裳の美しさが見事にとらえられています。

「婦女風俗十二ヶ月図」は、月々の季節感や行事を各図に背景として取り入れた作品で、美人の衣裳に見られる細密な描写と色彩には非凡な手腕が発揮されています。春章の最も脂の乗った天明期（1781～89）の作です。



主な出品作品

- |                |       |      |      |                  |
|----------------|-------|------|------|------------------|
| 1. 棧橋二美人図      | 喜多川歌麿 | 絹本著色 | 江戸時代 | 寛政10年(1798)頃     |
| 2. 寒泉浴図        | 喜多川歌麿 | 絹本著色 | 江戸時代 | 寛政11年(1799)頃     |
| 3. 婦女人相十品 文読美人 | 喜多川歌麿 | 大判綿絵 | 江戸時代 | 寛政3~4年(1791~92)頃 |
| 4. 重文 雪月花図     | 勝川 春章 | 絹本著色 | 江戸時代 | 18世紀             |
| 5. 円窓九美人図      | 鳥文斎栄之 | 絹本著色 | 江戸時代 | 寛政8年(1796)頃      |
| 6. 菖蒲をもつ女図     | 歌川 豊国 | 絹本著色 | 江戸時代 | 18世紀             |
| 7. 大童山土俵入      | 東洲斎写楽 | 大判綿絵 | 江戸時代 | 18世紀             |



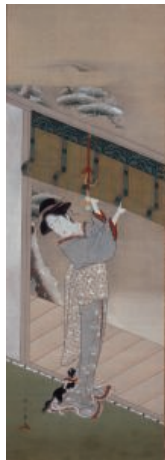
〔図1〕



〔図2〕



〔図3〕



〔図4〕



〔図5〕



〔図6〕



〔図7〕

イベント

当館学芸員による美術セミナー  
日時：2018年9月16日(日)  
13:30-14:30  
場所：MOA美術館 能楽堂  
参加費：無料(入館料は別途必要)  
定員：500人(先着順)

開催概要

展覧会名：歌麿とその時代 浮世絵黄金期の輝き  
会期：2018年8月31日|金| - 10月2日|日|  
会場：MOA美術館 展示室1-3  
〒413-8511 熱海市桃山町26-2 TEL: 0557-84-2511  
URL: <http://www.moaart.or.jp>  
開館時間：午前9時30分 - 午後4時30分(入館は午後4時迄)  
休館日：木曜日  
観覧料：一般1,600(1,300)円 / 高大生1,000(700)円・要学生証 / 中学生以下無料  
65才以上1,400円・要身分証明  
※( )内は10名以上の団体料金  
※障がい者手帳をお持ちの方と付き添い者(1名のみ)半額  
※前売り券は、お近くのコンビニエンスストア(セブンイレブン、ローソン、  
ファミリーマート、  
サークルKサンクス)、チケットぴあ、イープラスでもお求めいただけます。  
交通：JR東海道新幹線・東海道線 熱海駅下車  
駅前バスターミナル⑧番乗り場よりMOA美術館行 約7分終点下車

広報画像をご希望の方は、必要事項をご記入のうえ、MOA 美術館まで FAX にてお申し込みください。

FAX 0557-84-2570 MOA 美術館 広報宛て

広報画像申込書

MOA 美術館 広報画像を希望します。

貴社名

ご所属

お名前

ご住所

TEL

FAX

E-mail

媒体名

掲載予定日/放送予定日

年 月 日 発売/放送予定

掲載概要、予定文字・ページ数など  
(お分かりになる範囲でお願いいたします。)

貸出し希望画像番号

広報画像



1



2



3



4



5



6



7

(1) 棧橋二美人図

喜多川歌麿 絹本着色

江戸時代

寛政 10 年 (1798) 頃

(2) 寒泉浴図

喜多川歌麿 絹本着色

江戸時代

寛政 11 年 (1799) 頃

(3) 婦女人相十品 文読美人

喜多川歌麿 大判綿絵

江戸時代

寛政 3 ~ 4 年 (1791 ~ 92) 頃

(4) 重文 雪月花図

勝川 春章 絹本着色

江戸時代

18 世紀

(5) 円窓九美人図

鳥文斎栄之 絹本着色

江戸時代

寛政 8 年 (1796) 頃

(6) 菖蒲をもつ女図

歌川 豊国 絹本着色

江戸時代

18 世紀

(7) 大童山土俵入

東洲斎写楽 大判綿絵

江戸時代

18 世紀

〈広報画像取扱いに関する規定〉

◎広報画像はすべて MOA 美術館を紹介する場合に限ります。事前の申請・承諾なく二次利用いたしません。

◎広報画像を紹介する場合には、指定されたクレジットを併記します。

◎トリミング、変形、部分使用、文字のせは無断で行いません。

◎〈広報画像取扱いに関する規定〉に承諾のうえ、画像申込みを行います。

〈個人情報の取扱いについて〉

ご記入いただきました個人情報は、広報からの情報発信やご案内など必要ご連絡にのみ使用いたします。許可なく第三者に個人情報を開示することはありません。

MOA 美術館

広報担当：泉山/中間

TEL 0557-84-2567

Email

s-izumiyama@moart.or.jp

m-nakama@moart.or.jp